

特別展「慈悲のほとけ—観音と古寺の名宝—」 おもな展示品

1 聖観音菩薩立像 岡山市・法界院蔵

重要文化財 平安時代

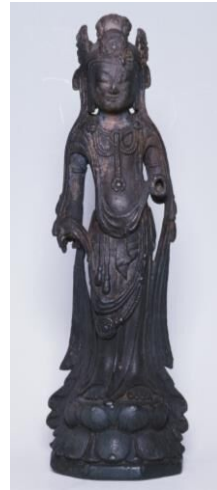
観音菩薩の基本形である聖観音菩薩立像です。木造で頭体幹部のほとんどを一木で彫っています。通常 33 年に一度のみ開扉される秘仏で、今回が寺外初公開です。



2 観音菩薩立像 鳥取県大山町・大山寺蔵

重要文化財 白鳳時代

銅で铸造された観音菩薩です。30 cmほどの小さい像で、台座まで一铸しています。頬のふっくらとした童顔形で柔らかな表現は白鳳時代の特徴です。



3 金陵山古本縁起 岡山市・西大寺蔵

岡山県指定重要文化財 室町～江戸時代

会陽で知られる西大寺の本尊・千手観音菩薩の霊験や、寺の歴史を詞と絵で紹介した縁起絵巻です。室町時代から江戸時代まで繰り返し制作され、現在7巻が残っています。

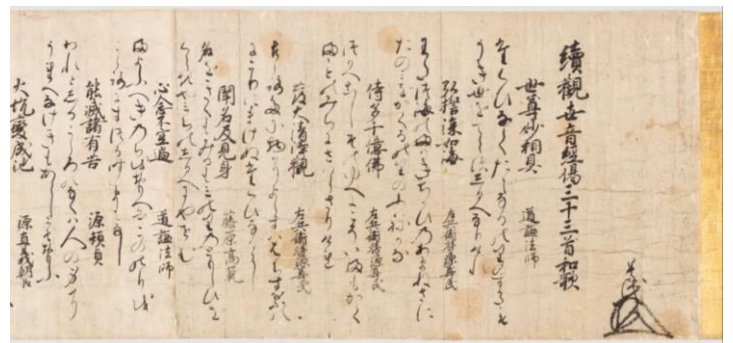
展覧会ではこれら6巻を展示し、現存一番古い古本縁起2巻を全場面展示します。



4 観世音法楽和歌 広島県尾道市・浄土寺蔵

重要文化財 南北朝時代

足利尊氏が浄土寺の本尊十一面観音菩薩に奉納した三十三首の和歌です。内容は、法華経の偈を和歌の題として詠んだもので、尊氏のほかに、弟・直義や土岐頼貞などの名が見えます。上洛途中に戦勝祈願のため奉納したと考えられています。



5 じゅういちめんかんのんぼさつりゅうぞう 十一面観音菩薩立像 よけいじ 瀬戸内市・餘慶寺蔵
岡山県指定重要文化財 平安時代

観音菩薩はあらゆる方向に目を向けて人々を救うとされます。それを頭に十一面を乗せることで表現したのが十一面観音菩薩です。本像はケヤキと見られる広葉樹の一木造です。穏やかな表情で、木目の美しさも見どころです。



6 ししゅうあみださんぞんらいごうぞう 刺繍阿弥陀三尊来迎図 たんじょうじ 久米南町・誕生寺蔵
岡山県指定重要文化財 鎌倉時代

観音菩薩は、阿弥陀如来あみだの脇侍としても知られます。臨終の際には、阿弥陀如来とともに、西方浄土（極楽）から迎えにきて、手に持つ蓮台れんたいに亡者を載せて運びます。本作は絵の全体を刺繍で表したもので、県内では珍しいものです。



7 してんのうずそうきんえとびら 四天王図鎗金絵扉 りゅうぞうじ 山口県山口市・龍蔵寺蔵
重要文化財 元時代

四天王のうち持国天などの三天を表した扉です。ちんきん沈金(漆面に絵を線刻し、金をすり込む)の技法を用い、金で表現しています。四天王は日本でよく見られる図様と異なり、ラマ教の図像に基づくものです。中国で制作されたほくらいひん舶来品です。



8 さんのうほんじぶつかけぼとけ 山王本地仏懸仏 きよみずてら 島根県安来市・清水寺蔵
室町時代

滋賀県・比叡山ひえいざんの麓に位置する、日吉大社に祀られる祭神の本地仏ほんじぶつ(神の本来の姿)を表したものです。観音を含む各仏は銅で鑄造されています。

